

【足立区地域自立支援協議会こども部会】会議概要(案)

会 議 名	令和6年度 【第2回足立区地域自立支援協議会こども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	令和6年10月3日（木）
開催時間	午後2時00分 ～ 午後4時00分
開催場所	障がい福祉センター 5階 ホール
出席者	小谷 博子部会長 榮 幸世委員 小長井 亜希子委員 相澤 政子委員 寺山 早苗委員 相澤 まり子委員 川松 佳緒里委員 古里 宏子委員 河野 正恵委員 石原 雅子委員 山本 克広委員 佐野 紘己オブザー バー（うめだ・あけぼの学園副園長）傳野 千世オブザーバー（東部保 健センター）
欠席者	酒井康年委員 神保義博委員 池村愛委員 辰田雄一委員
会議次第	1 開会 （1）障がい福祉センター所長挨拶 （2）委員紹介 （3）事務局紹介 （4）経過報告 2 議事 （1）部会長挨拶 （2）今年度の課題について （3）協議 （4）事務連絡 3 閉会
資 料	1 こども部会次第 2 ペアレントメンターのチラシ 3 東京未来大学のパンフレット等
そ の 他	公開状況：公開 傍聴：0名

様式第2号（第3条関係）

1 開会

【司会】

今回は小谷部会長が准教授をつとめていらっしゃる東京未来大学で開催ということで、施設見学の対応および協議会場をご用意していただきありがとうございます。

只今より令和6年度第2回足立区地域自立支援協議会こども部会を始めさせていただきます。

毎回のお願いであります、この自立支援協議会こども部会は、発言や会議内容を録音させていただいています。内容につきましては、後日会議録という形で皆様にもお諮りしたうえでホームページの方に掲載させていただきます。

では、協議に先立ちまして障がい福祉センター所長の山本より、ご挨拶させていただきます。

【山本委員】

みなさまこんにちは。障がい福祉センターあしすと所長の山本でございます。

猛暑は過ぎましたが、今日のように少し暑い日とか、涼しい日が繰り返していますので、体調管理には十分配慮されているとは思いますが、そのような中、こども部会に参加していただきましてありがとうございます。また小谷部会長には、このように会場をご用意いただき、また見学会も実施していただきまして、まことにありがとうございました。この東京未来大学は20世紀のころは、足立区立第二中で、金八先生のドラマの舞台になりました。毎回ではありませんが、ほとんどが第二中を使って桜中学の収録をしていました。その名残がまだこの建物にはあるということでござい

す。建物をきれいにして外側には柱のような耐震補強の壁をつけて、デザイン性も高いため完成当時は相当話題になったものです。

前回6月の時はいろいろと情報共有や連携についてお話いただきましたが、本日も障がい児支援についての話し合いをよろしくお願いいたします。

最後にこの場をお借りして告知させていただきます。10月5日に小菅拘置所のところで矯正展があり、そこで障がい者団体Aふらんきによる出店があります。同じくAふらんきが、1週間後の10月12・13日に荒川河川敷、虹の広場でAフェスタがありまして、そちらでも出店させていただきますので、もしお時間がありましたら、行っていただけたらと思います。

では、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

【司会】

ありがとうございました。それでは本日の配布資料について確認をいたします。

まず事務局からは、本日第二回こども部会の次第、A4の用紙1枚のものを配付しています。

ペアレントメンターの方から今年度のチラシ、現在新しいものを用意していらっしゃるのですが、こども支援センターげんきの地に移って活動を始めているというご案内が1枚です。

小谷先生の方から未来大学の案内についての冊子とオープンキャンパスのご案内それから大学のご案内が配付されております。

先日この会場で行われた日本小児リハビリテーション医学会の学術集会の冊子も配

付しています。今回小谷先生の企画で足立区長も参加してシンポジウムが開かれました。その様子なども、ぜひご参照していただきたいと思います。

まだ暑い日が続きますので水分補給に気をつけながら、ご参加いただきたいと思います。

なお本日ですけれども、足立児童相談所の辰田所長、それから千住桜小の池村先生、こども支援センターげんきの委員につきましては、公務等のご都合で欠席ということになっております。また、うめだあけぼの学園も委員の酒井先生がご欠席ということで、オブザーバーとして同じうめだあけぼの学園の佐野様に来ていただいておりますのでよろしくお願いいたします。

では早速ですが、小谷先生よろしくお願いいたします。

【小谷部会長】

まずは皆さま、本日は東京未来大学にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。見学会に時間がかかり、議事を開始する時間が遅くなってしまい、申し訳ございませんでした。

今回ご覧いただいた通り、東京未来大学は元々中学校だったところにできた大学ですので、いろいろなものがコンパクトにギュッと詰まった大学です。大学によってはキャンパスが広くて移動が10分もかかってしまう場合もありますが、とても小さな大学ですので教員としては10分休み中にいろいろ回れるため、とても便利な大学です。コンパクトでやりやすいなあと思って授業をしております。いろいろな学生たちをご紹介しましたが 割と人懐っこい学

生が多いなあと感じていただけたのではないかと思います。

今日は皆さんに、ぜひ率直なご意見やご感想を聞かせていただけたら良いなと思っています。

前半は、大学を見学した感想なども是非聞きたいなと思っていますが、どうでしょうか？保護者の方として、実際に回ってみたいかがですか。車いすを利用している学生もいます。

【小長井委員】

今日はとても楽しみにしてきました。うちの子は車いすで移動していますが、明るいし、いいなという感想を持ちました。ところどころ段差があったりしたので、誰かの手を借りないとだめなのかなと思いました。

ヘルパーさんをつけてというのは、ちょっとルール的にはダメなのかもしれないけれど、一人で通うとどんな感じなのかな？と想像しながら見学しました。でも本当に通わせてあげたいと思うくらいでした。

【小谷部会長】

ありがとうございました。

【古里委員】

自分の学生時代を思い出しながら見ていました。先生がすごく手厚い。私たちのころは放っておかれた感がありました。それが普通だったけれども、お話を聞いていると、入学前からちゃんと担任がいて安心です。

やはり小学校や中学校を回っていると発達障がいのある方がいて、生活そのものに大変さをお持ちでも、能力があったりするので、すごくいいことだなんて思いました。

【小谷部会長】

今日初めていらしていただいた東部保健センター傅野さんいかがですか。

【傅野オブザーバー】

はじめて参加させていただきます。ありがとうございます。入ってきたら学生の方がすごく活き活きと挨拶してくれました。先ほどパンフレットを見せていただきましたが、やはり大学って、入ったけど自分が思い描いてきたことと違うなと感じたり、入ってやはり難しいなと思ったりする学生もいると思います。挫折したり、退学したりする方、またお休みされる方もいらっしゃるって、保健センターにもうまくいかなくて引きこもりになって相談にくる方もいます。大学という空間の中で、先生と学生の距離が近いといった点では、すごくいいなという風に感じたところです。

その方たちが、実際に学生時代は何かやれていても、就職してから、社会って厳しいところもありますし、お仕事だからお金をもらうということで、自主的にやらなければいけないということもありますので、なかなか厳しいところもあるのではないかっていう風に思ったところです。

未来大学は、ゼミの方も手厚いということをお聞きしました。他大学では、ゼミが人間関係でつまづくきっかけになったりしているので、ゼミのことや、今後就職したことを考えると、意外と保健センターにつながるケースがあると感じたところです。

【小谷部会長】

ここまでの話し含めて、足立区との今までの経緯と大学誘致のところからお話をさせていただくと、今このように大学があるということにはやはり十何年以上かかっ

ています。最初、通信制大学を作る予定だったのが、足立区がここに大学を誘致するとなったときに、うちの大学も通学課程を急遽設置するということになったと聞いています。

本学は、地域につながりたい、頑張りたいみたいな学生たちを引き上げて、大学卒業まで指導していくってところなので、だいぶスタンスが他の大学とは違うと思います。

学生にとっては、大学が久しぶりの集団生活という子もないわけではありませぬ。小中学校はずっと不登校で高校は通信制の学校で、大学に入って初めて社会に出るという学生もないわけではないです。こども心理学部だからそのような学生が集まるということはあるまして、こども時代の心理を学びたいという学生、特に不登校で、自分で生きづらさを感じていたとか、自分が虐待を受けていたというケースもあります。学生自身がどうしてこうなったのか、今の自分の性格はどうしてこうなったのかということを知りたいと思って、学生が社会に出る前に最後の砦として未来大に入学するという感じがしています。

はじめはあいさつもできない学生が多いですが、入学時にスタートアップセミナーという研修を行うことで、挨拶の仕方や角度、電話のかけ方などを、2日間徹底的に指導します。登校のときには、門のところで、キャンパスアドバイザーが毎朝4～6人くらい立って、学生たちに挨拶しています。そして授業ごとに開始時と終了時に全員が立って教員にあいさつをします。学生を徹底的に指導していますので、校内に来客の方がお見えになると自然と挨拶がで

きようになるのです。就職まではきちんと指導し、問題があれば大学教員とEM室のキャンパスアドバイザーで情報共有しています。

先生と学生の距離が近いですし、卒業してからでも学生たちは大学に遊びに来たいようです。今週も卒業生が研究室に来るのですが、今でもとても仲良しです。私から見ますと、大学に来て自然と心を開けるようになっていて、をすごく感じます。心理学部で心理を学んでいるからこそ、なぜ親が自分にそういう風に言ったのかとか、発達障がいがどういうものなのかとか、親が虐待する要因はなんなのかなどを、客観的にみて、「あ！ だから自分はこういう性格なのか」っていうのを、理解する4年間なのかなと私は思っています。いろいろな所と連携させていただいていくことで学生たちは様々な経験をさせていただいています。これは足立区でなければできなかったことです。足立区には多くの大学があるので、すごく恵まれているなという風に思っています。

【相澤政子委員】

教室も明るくて、子どもたちも本当に生き生きしていたし、最初に就職窓口に入ってしまったのですが、「どうぞどうぞ」

「お時間まだあるようでしたらここでどうぞ」と言われ、すごく感じの良いところだなと思いました。ここが子どもたちの最後の砦だと、その先生の言葉が胸に響いて、すごくよかったと思いました。

行けない子とか、人と交われない子でも、ここに来たら本当に幸せだなと思いました。たまたま今一緒に働いている先生が未来大学出身です。未来大学に研修に行く

と言ったら、「母校です」と言っていました。どこかでつながっているなと思いましたし、こんな大学があるというのをどんどん発信した方が良いと思いました。

【寺山委員】

見学はしていませんが、非常に実は興味があります。今回は申し込んでいましたが来られませんでした。東京未来大学の学生さんたちがうちの幼稚園に教育実習にみえます。実習するのがとても困難な方もいますが、そこを先生方がすごくフォローしてくださっていました。先生方が研究でなく学生さんたちの教育に力を入れていると聞いて、そういうことだとわかりました。そういうところが先生の育成には必要で、頭がいいから、点数が取れたからということではなく、人間形成をしてあげなければいけない。門戸が広いというか通信など、いろいろな形で入学できるし、少しでも先生になりたいという人をサポートしてくれたのが素晴らしいなと思いました。

あと建物自体ですが、本当に金八先生の中学校という形で、私どもの幼稚園も建て替えなどするのですが、建物も耐震化など、アップデートしなければならない。何でも崩して建て替えるという意識となりがちですが、既存のものを使って工夫していけば使っていけるということを目の当たりにして、私は感動しました。

【小谷部会長】

ドアとかがすごく重いけどずっと使っていますね。冬は寒いですね。

【佐野オブザーバー】

見学には参加できませんでしたが、学生さんたちと先生方のつながりのお話を聞

かせていただいております。ありがとうございました。

【相澤まり子委員】

実は何回かこちらにお邪魔させていただいています。前回見られなかった細かいところを見せていただきました。小谷ゼミの学生さんとコラボして、いろんなことをやらせていただいています。偏差値だけではなく子どもに寄り添う大学であるということがわかりました。なんか先生の熱が感じられます。

【小谷部会長】

求められているのは、就職活動の時にちゃんと自信をもって自分をアピールする力です。それは偏差値では測れないものです。

プレゼン大会とか、人前で話す練習を積み重ねていっていますので、4年生になって就職活動をするときには出来上がっています。

他の大学では科目には入れないと思いますが、それはとても大事です。日頃の活動から、これをやりましたということをして一人一人が話せるようにするということは、結構手厚くやらないと、出来る学生ばかりではありません。自分で初めてパソコンを使わなくてはいけないので、丁寧に指導していかねばと思います。

【河野委員】

学生たちが生き生きしていて、活気もあるしすごくいいなと思いました。建物もそのままというか、あまり壊さずに使っているところが良いと思いました。

【小谷部会長】

ありがとうございます。うめだあけぼの学園からも来ていただいています。いかがでしたか。

【佐野オブザーバー】

初めて来て、この駅自体が初めてだったので、景色があまりにも素敵で、すごいところだなと思いました。こういう大学というのは初めてで、小さい敷地の中にこれだけの機能が入るというのは、すごいと思いました。

【栄委員】

食事から参加しました。懐かしかったです。学生時代を思い出しました。食事の途中で授業が終わったようで、学生たちがいっぱい入って来ました。決してうるさくはない。職員さんもすごく若い方が多く学生たちも相談しやすいのではないかと思います。こちらの大学は通学で入っても、もし通えなくても通信に行けるなど、分岐がたくさんあり、行く子が安心かなと思いました。

【小谷部会長】

結局、通学課程も通信過程も教えている教員が同じなので、「この学生通信課程に移ったのだな」とか、そういうつながりが通信課程に行ってもあります。事務も共有しています。

【栄委員】

校舎内は机とイスがたくさんあったのでお気に入りの場所ができるのではないかと思います。自分が大学に通っていた時は、山の上で広かったですが、そんなに机とイスがなかったです。

【小谷部会長】

通信課程は学費の方もかなり抑えています。とにかく安く設定して、通信課程は驚くほどに安いんです。通学課程があるから回しているという、教科書代とかを入れなければ年間20万円くらいで通えるのではないかと思います。通信課程の学生さんでも通学課程と同じように図書館をはじめ多くの施設が使えるのです。教員の私も最初はそのことに驚きました。教室については、月曜から金曜を通学課程で使って、土日で通信課程のスクーリング授業に違って、夏休みは両課程でフルに校舎を使っています。次に川松さんいかがですか。

【川松委員】

私、今日午前中に会議があつて、お昼を食べて来られなかったのですが、学生さんに「どこか食べる売店ありますか」というと、すごく丁寧に教えてくださいました。電車から大学は見えますが、どうやって行くかはわかっていませんでした。ちょうど学生さんが降りる電車に乗っていたので、みんなと一緒に来ました。私に気づくと誘導してくれるような学生さんがいて、すごくいい子たちだなと思いました。見かけ狭いかなと思いましたがキャンパスっぽくて、1人1台のピアノも見せてもらいました。ちょっとしたイスのあるスペースや過ごしやすそうな場所がいっぱいあって、本当にキャンパスライフを楽しめるなと思いました。普段ペアレントメンターとして活動しているので、大学に入ったのはいいけど心配ですとか、将来の不安がある人に、もしかするとこんな大学があるということ、今日は詳しくお話を聞くことができたので、今後伝えていけたらいいなと思いま

した。すごく未来のある学生さんたちが熱心に学んでいるのがすごくいいなと思いました。

【小谷部会長】

学びはやめたくないけど精神的な問題で継続できないという学生もいます。だからこそこども心理学部で学びたいということがあるのだと思います。

先月開催した小児リハ学会の時に電機大の学生にも手伝ってもらったのですが、電機大の学生が参加者の保育をし、未来大の学生たちが工作のところの担当をしました。それぞれの大学が得意分野をちょっと変えてみて、2つの大学の学生同士が連携をし始めています。今後足立区に6大学があるので連携ができればいいのかなと思っています。大学が近くにあるということとはとても大事だと思っていて、特にパニック障害などで電車に乗れなくなってしまう学生には、歩いて来られる距離だといいいのにと思います。近くに大学がいくつもあつて自分で大学を選べるということは、とても大事だと思っています。6つもあればさすがに自分にあった大学が、1つくらいはあるのではないかとか思ったりします。

【石原委員】

いつもお世話になっております。ありがとうございます。わたしは未来大学で幼稚園教諭更新の時に3日間通って授業を受けました。大学で挨拶の仕方とか電話のかけ方とかを学んでいること、それは社会に出てすぐに必要なことです。挨拶ができないと次のコミュニケーションが取れないし、さわやかに明るく挨拶してくれることを、私たちは職場でも求めているので、学生に寄り添うというか、社会に出てもすぐに役

立つというか、人間の基本というか、そういうところを寄り添って教育してくれている。学生にもよく学んでいるなという姿勢を感じます。子どもたちのためにいろいろなことをやってくれていて、どうぞいらしてくださいというチラシもいただいていますので、とてもありがたいなと思います。

【小谷部会長】

地域の皆様に学生たちが大事にしていただけにいるということに感謝しています。

学会を開催したときは学生たちが100人くらい手伝ってくれました。新しいことを経験したいという学生が育っているのがよかったと思っています。お金ではなく、地域の子どもたちが参加するのであればやりたいという思いで参加してくれています。

今回の学会では、こども家庭庁からも課長さんに来ていただきました。

パンフレットを見ていただきたいのですが、私が会長になったのは、理事長の小崎慶介先生が私の研究室の先輩だったからです。未来大を貸してくれないかと言われて、未来大を会場にし、大会長が回ってきたという感じです。

こども家庭庁からも子どもの育ちについてインクルージョンの推進ということで、栗原課長さん自身、元厚生労働省にいた方です。直近は障害児支援を担当されており、今回、保育課に異動され、保育園と児童発達支援が一つ屋根の下で実施され、定型発達児と障がい児が一緒になったインクルーシブ保育を推奨していくといった国の方針が出されたお話がありました。

次に特別講演ですが、人工内耳を作った東大の伊福部先生、さらに、日本のてんか

んのトップである東北大の中里先生も来てくださっていました。特別支援学校には、てんかんのお子さんも多いので参考になったのではないかと思います。国立成育医療センターの掛江先生は小児患者の成人移行についてお話しくささいました。

足立区の近藤区長にもご登壇いただきました。私は、区長にたくさんお話ししていただきたいと思っていましたが、コメンテーター的な位置づけでお話ししていただきました。

本学会の理事で国立障害者リハビリテーションセンターの芳賀総長、本学の出口保行副学長、うめだ・あけぼの学園の酒井園長にもご登壇いただきました。高祖先生も虐待の防止ということでご講演をいただき、ファシリテーターとして間を取り持ってもらいました。私は大会長というのは名ばかりで、常に会場内を動き回っていて、ファシリテーターをすることができなかったもので、区長のお話等を引き出していただきました。

区長には「足立区はすごいぞ」ということをどんどんアピールいただければと思っています。最後には、「足立区に保育園がありますし、障がいのある子どもが大人になってからも安心して、取り残さないうで生きていくためには小さい頃の関わりも大切だね」という話もありました。

一つ目のシンポジウムででは、親しくしている東京電機大学の方から大西先生・荒船先生、杏林大学の磯山先生に来ていただきました。医療的ケア児の中心な先生である埼玉医大の奈倉先生、薬学から愛知学院大から鬼頭先生にいらしていただきました。

二つ目のシンポジウムでは、インクルーシブ教育というところで、障がいのある子どもたちも一緒に学ぶということが、当たり前の世界になるようにというところを佐賀大学の浅見教授からお話がありました。北千住にもあるどろんこ保育園の理事長である安永先生には、保育園と児童発達支援の併設園のお話がありました。

都立花畑学園からは、現在の校長である永島先生にも花畑学園の現状についてお話をうかがいました。

超重症心身障がい児の保護者である水永さんには、ICTなどを活用しながら大阪府の普通学級に通わせている様子を講演していただきました。本学の高橋は、元々中学の教員であり、障がいのある子が普通校に通うことの大切さについて語りました。

3つ目のシンポジウムでは、パラスポーツということで、東京未来大学の藤後がお話しさせていただいています。彼女は、足立区の区民評価委員の委員長をしています。

堀江校長は、現都立鹿本学園の校長ですが都立花畑学園の時の話を中心にお話をいただきました。東大リハビリテーション科医の藤原准教授からは四肢の欠損の子たちについての話があり、ハビリスジャパンに所属する四肢欠損のお子さんたちの演奏会が開催されました。東京ベルディの中村コーチには、講演だけでなく、パラスポーツの体験会もやっていただきました。委員の相澤さんが、花畑の子どもたちをたくさん連れてきてくださって、前花畑学園校長の堀江校長がとても喜んでいたことが印象的でした。

今回、学生セッションも二つ設け、若手の研究者として電機大と東大の学生に話をしてもらいました。ちなみに、電大と本学の学生は、ハッカソンということで一緒にものづくりをしています。

二つ目の学生セッションでは本学の学生が4名登壇しています。1人目の学生は486グラムという超低体重で出生しています。本学の自治委員会である学友会、いわゆる生徒会みたいなものですが、代表をしている学生です。産後すぐからのケアやリハビリテーションにより、知的な遅れもなくきちんと育った学生です。2番目と3番目の登壇者の学生は、今1年生です。特別支援学校出身です。堀切駅はバリアフリー化されていませんが、二人とも頑張っ大学に通ってくれて、私も入学の頃からずっと応援しています。4番目の学生もすごく頑張ってくれています。4人の今後の成長が楽しみです。

小児リハ学会は、来年度は旭川で開催されることが決まっています。全国の小児科医とか整形外科医とか作業療法とか理学療法とか心理職の人が入っている医学系の学会で、足立区で開催したことは大変意義のあることだと思っています。今月の半からは、オンデマンド配信も始まります。これから多くのドクターたちが見てくれるのではないかと思います。

【司会】

今年度は横の連携ということをテーマに取り組んでいます。第1回の中で特に、どこにもつながっていない家庭、保健センターでいえば健診の未受診者、保護者の方で少し発達の課題があるなど、それぞれの機関、それぞれの立場で、そうしたケースに

遭遇する機会があると思います。そういうことに気づいたらこうしていますとか、こういう難しい事例がありましたというようなことをご報告いただく中で、じゃあ足りないところはどこだろう。今後こども部会として、こんな所がこんなことしてくれるといいなというようなところに先々つなげていきたいと思いますので、ご自身の経験、お立場で結構ですでお話しいただきたいと思います。

私どもですと4歳くらいになって発達の様子が心配ということでこども支援センターげんきからご紹介されて、お見えになって、その時点で幼稚園や保育園にもまだ通っていない、在宅という方も中にはいらっしゃいます。幼稚園に入るにも、ある程度「ことばが話せるようになってから」と思って、様子を見ていましたが、もう4歳になってしまいました。」といったケースも年に数件あります。

それぞれの立場で、お子さんや保護者の方と接する機会があると思いますので、こういう機関につないでいます、あるいは、つなぐと思ったけれど、つなぐ先が見当たらず、こういうところがあつたらいいのというお話でも結構です。皆さんからちょうだいできたらと思います。皆さんから出された内容をもとに第3回の検討をすすめられたらなと思っています。

【小谷部会長】

逆に「いつ」をきっかけにして相談、こどもの発達に課題があるとわかったときにどういったタイミングで相談に行くか伺いたいと思います。保護者の立場とか周りの方の意見をうかがいたいなと思います。

【榮委員】

子どもの障がい、受け入れたくないから相談に行かない。相手が強引であったゆえに行くことができた。自分の行動範囲の中には障がい児はいないのかなと思っていたが、集まりに行ってみると「あ、こんなにいる」と気づいて安心感を持つことができました。

【小谷部会長】

今サポートする立場になったら、お母さん方の見え方というか、ここで強く言った方がいいとか、そういうことを経験として考えながら対応されているのですか？

【川松委員】

特別支援学校で周りの保護者さんとかも見てきて思うことですが、そもそも自分のことも100%受容することはできない。自分が何%くらい障がい受容するのかは、その人の自由というか誰にもどうにもできないというところがすごくあります。ペアレントメンターとして特別支援教室の先生とお話しするときに、すごく困った子を抱えている先生がいて、実際に困っている子がいて、親御さんがその子の障がいを認めて医療につながれば、自分がとても楽になるのではないかと感じ、話をしてくる先生がいます。「どうやって障がいに気づきましたか」、「どうやって障がいを受容しましたか」と聞いてくる先生がすごくいます。そういう時に、障がい受容ってその親御さんにとって、自由なものというふうには私は感じていますから、指導される方は、できる範囲でその環境を整えるのが良いのではないかという話をするようにしています。

つなぐという話でいえば、げんきにペアレントメンター事業が入ったので、発達相

談に大体はつながっている人が来ますが、まだつながれないのだったらありますよと紹介することもあります。

【小谷部会長】

幼稚園の方ではいかがですか？

【寺山委員】

療育に通っていると幼稚園には通えませんが、ということが多いので、つながっていない方が来ます。今は大体どこの園でも2歳児保育をやっていたり、2歳児の親子教室をやっていたりします。その段階で言葉が出ないという子もいます。2歳児では喋れない子も沢山いますし、それだけで障がいのある子だとは思いません。

私たちは専門家ではないので、「ご心配でしたら」ということで、こども支援センターげんきへの紹介をしています。

幼稚園に入りたい人は、障がいがあったとしても、とてもとても認められないという人が多いです。集団生活を送るという面に関しては、障がいがあろうとなかろうと、みんな一緒にできます。あしすとに行った方が、個別が受けられるので、幼稚園での集団とうまく組み合わせて利用してもらうのがよいと思っています。

幼稚園としても、入園する以前に0.1.2歳児を中心に赤ちゃん広場みたいなところをひらいているので、そこに来ていただいて、インクルーシブな考えというか、障がいのあるなしが問題ではなくて、どんな子でも幸せに育っていくためには、いろいろなやり方があるということを小さい時期から発信していきたいというのが私たちの考えです。幼稚園もこれからそういうのが必要になって来るのではないかと思います。

あと、つながっていないお子さんとか保護者っていうのは、障がいを持っているとかではなくても、私共の卒業生でも小学校で不登校になるお子さんが多くいます。

【小谷部会長】

幼稚園には行けていたけど、小学校になってからいけなくなった子ですね。

【寺山委員】

そうです。それでご相談に見える方も多くて、私共の幼稚園でも空き教室があるので、居場所作りとして自習室にするということを試験的に行っています。不登校の子ですが、不登校から引きこもりになっていってしまうので、そこで誰に相談したらよいかわからなくなってしまう人がいます。

結構増えてきているので、不登校からの引きこもりのお子さんたちをどこにつなげていったらよいのかなと思います。

【小谷部会長】

区の方はどのようなご対応を考えているのでしょうか。ちょうど今、当事者の方と小学校に送り出した後のことが話題となりましたがいかがでしょうか。

【司会】

はい、私も教育を離れてしまってから少し時間が経ってしまうのですが私はあしとに来る前は、教育相談を担当していました。そこで足立区の不登校のお子さんたちに接してきました。障がいではないと言っていた不登校に関してですが、アセスメントをしてみるとやはり、発達に偏りのあるお子さんもかなり実際にはいらっしやいました。診断がついているということではないですけど、やはり大勢の集団の中で生きづらさを抱えながら不登校になっている。不登校イコール障がいというわけでは

ないけれども、そういったところのあるお子さんは多くいたなと思います。

あとは引きこもりになったときの相談先について、不登校もいきなりではなく徐々に不登校になっていくことが多いです。できればなり始めたころや、兆候が見られたころから早めに相談していただけるといろいろな対応を考えることが出来ます。たとえば足立区ではすべての小中学校にスクールカウンセラーが2名体制で入っています。区から派遣されているスクールカウンセラーと、都から派遣されているスクールカウンセラー、それから各校にというわけではないのですが地域を担当しているスクールソーシャルワーカーという福祉職も入っています。不登校の方には様々な背景があるかと思いますが、例えば家庭の要因、ヤングケアラーと呼ばれますが、昔は7～8人のきょうだいがいて、赤ちゃんのお世話をするために中学生のお姉ちゃんが学校を休んでいたというような事例がありました。そういったところにスクールソーシャルワーカーが入って行って福祉的な支援を提供することもあります。

また、教育相談という部門では、保護者の方のご相談にのることが出来ますし、家庭訪問したり、チャレンジ学級という不登校のお子さんが通って来ることが出来たりする区立のフリースクールのようなものもあります。

三幸学園がやっている千寿第五小跡地にできた“学びの多様な学校”東京みらい中学も4月からオープンしました。また、全部の中学校かどうかはわかりませんが、「スクール サポート ルーム」という学

校の中で別室登校ができるというようなことを始めています。

かなりいろいろな手立てはあります。ただ最初の相談先というのが悩まれるところだと思うので、まずはお子さんをいきなり連れてきてくださいというのでは、ハードルが高くなってしまいますので、保護者の方だけでもスクールカウンセラーでもいいし、げんきの教育相談でもいいし、そこからつながっていくこともできると思います。

やっている側としては、いろいろPRしているつもりですけど、そういった情報が、届きにくいご家庭や保護者の方もいます。

学校を休んでしまうと、学校経由で配ったプリントというのは、絶対に行きません。例えば「困ったときはここに相談してくださいなんていうカードは届かないわけです。そういった人に、そういったものが、届くような仕組みが必要なのではないかと、今話しながら思いました。

【寺山委員】

仕組みはありますが、それが機能していない。でも実際チャレンジ教室に通っている卒業生はいます。うまく機能するにはどうしたらいいのか。さっきもおっしゃったように学校に行っていないと、情報を得ることもできない。でも本当に避けては通れないような状況になっている。仕組みはあるので、それをどのように知らしめていけば良いのかが課題となりますね。

ちょっと近年コロナがあったことからそれが顕著になり、気になっています。

【小谷部会長】

特別支援学校に不登校ってありますか。

【古里委員】

沢山ではありませんが、います。小学校の時は嫌だけど頑張ってきていて、中学生になってお家で暴れるようになってしまった場合とか、音が苦手で、特別支援学校では配慮しているのですが、集団の中で教育ということになると、対応が難しいこともあります。場面によっては個別対応しますが、いつも個別というわけにはいきません。中学部になると作業の時間も出てきます。作業は嫌いでも、いろんな場面を経験するうちに苦手が多くなってしまって、お家から出られなくなってしまう例もありました。私たちも家庭訪問して支援しようとしたのですが、身体が大きくなったことで、お母さんが家から出せなくなってしまうと、私たちが行って働きかけても応じてくれないような難しいケースもあります。

特別支援学校も一生懸命個別対応を含め、やろうとしています。完璧かという、なかなかそうはいかない現実もあります。

【小谷部会長】

民生委員の方の立場からすると、いかがでしょうか？ 大人になってから家に引きこもっているというケースいますけど。

【相澤政子委員】

いますけどそういうのは入り込めないです。障がいを持っている方は、気圧の変化で機嫌が悪くなったりします。温度調整とかも難しかったりするので、朝から調子悪い子はママがバスに乗れないからっていうので送り迎えする方もいますし。

どこまで手を出していいのかっていうのは、私たちは次の段階につなげるだけのサ

ポートしかできませんので、それ以上入り込めません。

保護者の方には、自分の気晴らしをなさいって言っています。それじゃないと自分も共倒れしちゃうし、自分はしっかりしなさいって、楽しむことは楽しみなさいって、それは必ず言っています。

閉じこもっているのでは家族みんながだめになってしまう。いつもお母さんは明るくて元気でいなければいけないから、それだけ心掛けていてと、いつも言っています。

一緒になって暗くなることもないですしその子どもの個性と言っても、性格もあります。声を掛けますし、誘い出したりもします。それ以上は各家庭ですね。大学を出てから社会が壁となる方もいる。その子ども自身が一番悩んでいると思います。

【小谷部会長】

民生委員さんは大変なお仕事ですね。地域の方のお役に立つためにと日々回っていらっしゃると思います。保健センターではいかがですか。

【傳野オブザーバー】

妊娠届が出ます。スマイルママ面接をします。赤ちゃんが生まれます。赤ちゃん訪問をします。健診で実際にお会いするのは3～4カ月健診、1才6カ月健診、3歳児健診があります。地域では、0歳児の教室をやっています。保健センターでいろいろな教室をやっていますということで、あらゆる機会にお会いする機会があつて、健診ですと90%以上100%に近い方にお会いできるので、そこでアプローチできるということはあります。

先ほど保護者の方というところで、1歳6カ月健診でちょっとゆっくりめですねとか、発見されることが多いと言われていましたが、1歳6カ月健診はやはり歩けているとか意味ある言葉が言えているとか、理解をしているとか、指さしは出ているとか、確認する場面があるのですが保護者の方がうちの子は明らかに遅れているかと思っていたりとか、発達が気になるっていう方だといひのですが、そういうことを言うことで傷つけてしまうというところがあります。私も「傷つけられた」と言われて、私としてはそういう意図はなかったけれど、おかあさんが傷ついたというところで、なかなかどう言っているかということはいひいところす。言葉というのはい個人差もあるのといひ伝え方はいしています。次の検診はい3歳児健診になりますので、それまでの時間がい空きすぎているので、こちらの方としては保護者の方に合わせてアプローチしています。心配な方についてはこども支援センターげんきから発達支援の職員が来ているので、そこにつなげるといひことをしています。結構、1歳6カ月健診でどう伝えるかといひいうのは、こちらもドキドキしながらやっているところす。

3歳児くらいになると、幼稚園とか保育園から心配なので、健診の時に確認をお願いしすといひ電話が入ります。相談してくるようい保護者に行っておいてくれればよいのですが、それが保護者に伝わってなくて、内緒でお願いしますといひ言われてしまうと、内緒って言われても保護者が心配していればよいが、心配ありませんとなってしまうと、それ以上踏み込めないといひことになってしまう。そうすると集団の場

で見てくれている先生から言ってもらった方が、うまくいくと思ふときもあります。

学校といひところで不登校といひ話が出ました、不登校のお子さんにきょうだいがいいたりすることもあるって、保育園・幼稚園からその情報が入ることもあります。虐待とか不登校といひことで、家庭環境の問題があつたりすると、児童相談所とかこども家庭相談課から連絡が入ったり、あと福祉事務所の担当の方もいらつしやるので、いろいろな機関が集まって知恵を出しあつてどんなふうに関わつていったらいいか、どこの機関がどういった役割を担うといひのかといひ相談はしているところす。

【小谷部会長】

保育園ではいかがですか。園の先生の方がよく気付くといひことでもあると思ひます。

【石原委員】

うちは産休明けからやっているので、保健師さんとの連携は行っています。

区立保育園はい支援のお子さんを、どこの園でも受け入れていますので、板橋医療センターとかそういうところに障がいを通っていましたが、いざ足立区の保育園に行きたいですとなつたときには、関係部署が集まって、その子のカンファレンスを実施しています。

うちの園を希望しているといひことであれば、私も行って話を聞いて、じゃあその子の受け入れをしましうと話しす。やはり地域で受け入れていくといひのが、基本になります。そのお母さんが、保育園に行きたいですといひことになれば、保育園で受け入れていきましうといひことでつながっているといひことになります。

1歳半健診を受け、「経過観察しましょうね」という言葉は、経過観察って言われたのだから、絶対何かあるはずだと、保育園としては思うわけですが、でもこの子が入ってきたいって言ってきてくれたからいいと考えます。入らないでまま5歳児になり、それでも入らない。3歳児検診で「保育園に行った方がいいよ」「幼稚園行った方がいいよ」と言われて、「いや、行かなくてもうちはいいです」ってなったら、ほんとにつながることができないですよ。そういう子が近くにいますよということになれば、保育園で「〇〇広場やっていますよ」「子育て相談やっていますよ」と、サービスを上げ、アピールしていますが、お母さんが気づいてつかんでいかないと、なかなかつながらない。学校へ行く段階になってはじめて「この子どうしていたのですか」と、就学時健康診断の時に発見されるというようなことにならないように、どうしていいかと考えています。

どこかにいきたいとか、サロンに行きたいとか、つながろうとしているお母さんの子どもだったらいいけど、つながろうとしない。

DVとかを受けて逃げているお母さんとかは、どっかにつながったら見つかったら。病院に行っただけで見つかったら。何か買い物で通販使ったら見つかったらっていうことを恐れて、つながらない。

私たちは何とかしてつながってほしいっていろんな手立てをしますが、こうした親子を発見するということのほうが大事だなと思ったりします。

誰とつながって、誰が見つけていくのかと考えると、やはり保健センターの1歳半

健診・3歳児健診を受けていない人をどうつなげていくのかということ、学区内の区立保育園が行ってくださいっていうのか一緒に行きましょうっていうのか。あだちっ子歯科検診というのはそういう人たちを拾い上げていきましょうという事業でもあると思います。そこでも引っかかってこないお子さんについて、今回足立区の教育委員会では、5歳児までどこにもつながっていない未就園のお子さんを地域別に調べました。すると、外国籍の方が多かった。うちの学区内には4人いたので、絵本をもって訪問してつないでいこうとしています。やはり外国籍の方が多いっていうことと、いつ行ってもいない、絵本はポストに入れてきたけど、いただきましたよという返事も来ない、どこにもつながらない。

こうした方々に、どうにかして会っていくということをしています。夏と秋と2回訪問して、これから最高6回を上限として会えるまで訪問を続けるという事業を公立園の園長が行っています。うちの園では会えたのは1人だけでした。その人は既につながっていたので、他の3人に対してアプローチをしている。そういう子もつながらずに学校へ行ってしまう。訪問はどこかにつながっているかについて確認をします。つながっていない場合は、保育園に遊びに来てねという、マイ保育園というシステムを紹介します。このシステムは幼稚園や保育園でやっています。そういう事業は足立区も考えてやっています。

つなげる場所は、こども支援センターげんきと、私たちは思っているので、支援の方はげんきだし、医療の方は病院だし、園医さんともやっていくし、協力してい

く。どこかにつなげるということを大事にしています。なので、どうしてもつながらない子をどうするっていうの、が今の課題かなと思っています。

【小谷部会長】

東京都ではどうですか。北療は肢体系で病院からのつながりということでこれまでとは話が違うかなと思いますが、いかがですか。

【河野委員】

医院さんからの紹介が多いですが、保健センターから来るように言われてきたという方もいらっしゃると思います。

【小谷部会長】

寝返りを打たないとか立たないということからくる方が多いですか。生まれつきとかではなくて、後天的な感じで気づくものでしょうか。

【河野委員】

発達の段階で遅れていて、お母さん自身が自分で気づいて連絡してくれる場合もあります。

通園もやっていますが、外来もやっていますので、診てほしい・確認してほしいという電話は保護者から入ります。もっとニーズはあるのではないかなと思っています。

例えば、診察をしてリハビリ理学療法をやった方がいいのではないかってお話をしても、ご家族がまだいいだろうということがあります。

医学的なところで必要なのではないかっていうのを受け止めないとか下の子がいるから行けませんというケースもあります。

【相澤まり子委員】

うちは結構城北分園とのつながりがあります。そこにお母さんたちのネットワーク

がある。ハートぼっぼに通う子には不登校のお子さんは、現在一人もない状況ではあります。不登校の事例を紹介することはできません。話題も少し変わってしまって申し訳ないのですが、やはり思春期を迎える時期になると、きょうだい児の問題を感じます。お母さんの孤立、身体が大きくなってきて他の支援を受けることを考えても相談支援事業所がどこもあいていない。ハートぼっぼにも相談支援事業所はあるけれども、キャパオーバーで受け入れられない。お母さんたちがセルフプランでいろいろな情報をつかむというのは難しいこと。支援を待っていらっしゃる方は大勢いること。きょうだいを持つお母さんがきょうだいを抱え、悩んでいらっしゃる方が多くいる状況です。

【佐野オブザーバー】

私どもの施設は気になるというレベルのお子さんから支援を受けるレベルと幅広い方々を対象に活動しています。すでに通っている方もいろいろな思いを持っていらっしゃる。それは学校へ行くときに感じられる方もいるでしょうし、通い始めた後に感じられる方もいます。げんきさんとの間では、あけぼのの支援を受けたいという方について話が来ることが多い。保育園から紹介を受けて見える方も多い。どこにもつながらない方というのは、幼稚園にも保育園にも行っていないということになると、そのご家庭の事情もあると思います。

何か支援やサポートを受けたいと思うことが行動につながると思います。

【山本委員】

つながっていないご家庭に、どのようにアプローチしていくかという話もありまし

たが、いろいろ働きかけられて、行ってみたら同じ境遇の人に出会えたというそういうこともありますから、そういうことでつながっていける人は、何かしら働きかけをすればよいのでしょうか、つながりを望まない方とかの方が難しいというか、虐待を含めたリスクが高いのかなと思いますとどう立ち入ったらよいか、立ち入り調査を含めて最悪のことも考えてやらなければいけないのかなと思いました。今日準備してこなかったのですが、児童福祉法がこの4月に改正されて立ち入り調査の要件について書かれていたので、今後参照していきたいと考えます。

休憩前のテーマになりますが、部会長が足立区のおかげでいろいろ活動できるとおっしゃってくださいました。大学のおかげで足立区も活気づいているということをぜひ申し上げたい。

【小谷部会長】

ありがとうございます。若い人が増えたということは大きいですね。うちの大学だけでも2,000人くらいいますし、電機大はもっといます。帝京科学大も増えて北千住の街の昼間の年齢層がこれまでとは全然違うようになりました。

【山本委員】

学生さんたちが街を変えていますね。未来大さんとお菓子の開発もされていますね。

【小谷部会長】

今後は肢体不自由の子たちにも来ていただけるよう働きかけています。

【山本委員】

足立区の小学生たちも大学ってこういうところだというイメージも持ちやすくなり

ます。ちょっと進路にも関わってくるのではないかなと思っています。

【小谷部会長】

電機大と、今度はこどもたち向けの講座もやろうということも話しています。さらに大学同士の連携も深めていこうかなと思っています。

では事務局にお渡しします。

【司会】

今日は部会が始まる前からランチ・見学・部会の会議ということでご参加いただきありがとうございます。なかなかこういう機会でないと、大学の実情であったり、実際に学生と触れ合うことだったりといった経験はできなかったと思いますので、こうした機会を設けていただいた小谷先生ありがとうございました。

こども部会は年3回を予定しております。次回第3回目はご案内のように都立花畑学園での開催を予定しております。時期につきましては1月か2月ごろに日程を調整しまして決まりましたら皆さんにお伝えしますので次回もまた是非ご参加ください。あしすの方からひとつPRなのですが11月の下旬から12月にかけて障がい者週間記念事業というのがあります。

皆様お運びいただけたらと思います。